

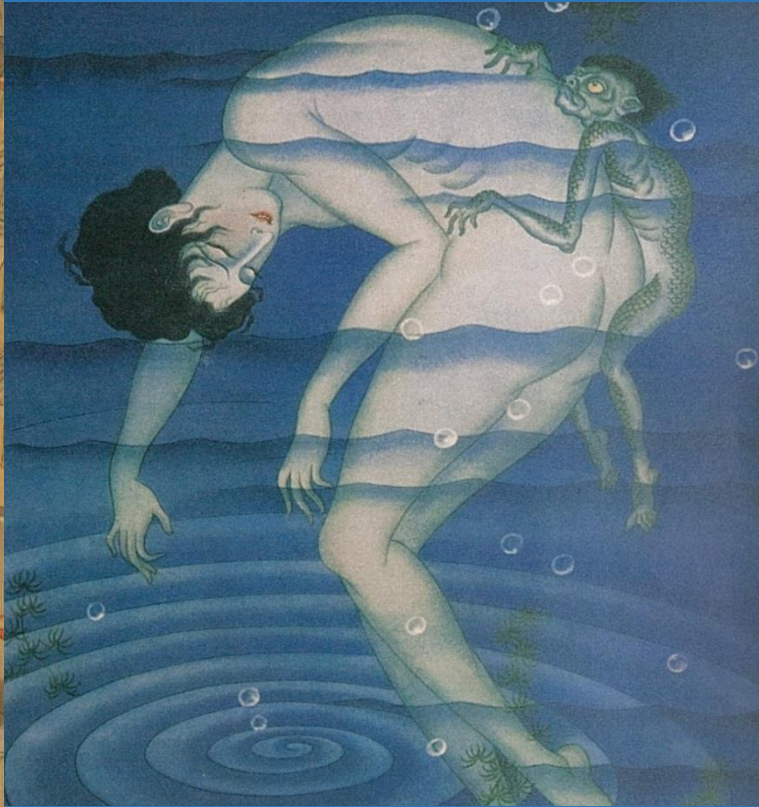
凄

端正な女性美や清楚な女性美を表現する画家は多いが、凄みのある女性美を表現できる画家は稀である。小夢の絵は「濃艶凄艶そぞろに肌の寒さを覚えさせるその画風は、特異な一つの存在であります。※」と評された。

ただ美しいだけではなく、ひき込まれそうな怖さをたたえているのが、小夢作品の魅力。※昭和10年「名作挿絵全集 全12巻」刊行時に平凡社が制作した宣伝パンフレットより

日本の妖美 橘小夢展

—幻の作品を初公開—



2015年4/3(金)~6/28(日)
弥生美術館

橘小夢 (たちばな さゆめ)
プロフィール
明治25~昭和45年(1892~1970)秋田県生まれ。川端画学校で日本画を学ぶ。大正4年から博文館の雑誌に挿絵やコマ絵を描き始め、その後から愛好家向けに日本画を頒布し始めた。大正末~昭和初期には挿絵で活躍。大正12年に三栄社、昭和7~10年頃には夜華異相画房(やかいそうがぼう)と名づけたアトリエから、版画を発表した。



艶

趣旨

橘小夢は、大正~昭和初年代を中心に、日本画・版画・挿絵等を描いた画家です。日本の伝説に語り継がれる、美しくも妖しい世界を好んで描きました。例えば狐の性を持つ美女「玉藻の前」や、恋しい男への執着から蛇に化身した「清姫」等、日本の民族譚の裡に在る魔性や官能を描き続けたのです。

世界が日本の文化に注目している今、日本人自身にも日本文化への回帰現象が起きつつあります。このような機運を迎え、日本の伝承文学にこだわりビジュアル化した橘小夢にとって、再評価される絶好の条件が整ったといえましょう。

初公開作品を含む約200点の作品により、小夢の妖しく幻想的な世界を堪能いただけます。



妖

概要

主催・会場 弥生美術館

会期 2015年4月3日(金)
~6月28日(日)

展示総数 約200点

連絡先 TEL03-3812-0012
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

ギャラリー・トーク 4月11日(土)午前11時、5月10日(日)午後2時、6月20日(土)午後2時

休館 月曜日 ただし4月21日(火)
~5月10日(日)は無休

料金 一般900円 大高生800円 中小生400円 (竹久夢二美術館と二館併せてご覧いただけます。高島華宵の常設ルームもご覧いただけます)

交通 東京メトロ千代田線根津駅 or 南北線東大前駅共に徒歩7分/JR上野駅公園口・しのばず口より徒歩20分 (東京大学 弥生門斜め前)

担当学芸員 中村圭子

見どころ1
幻の画家
謎の生涯を解く

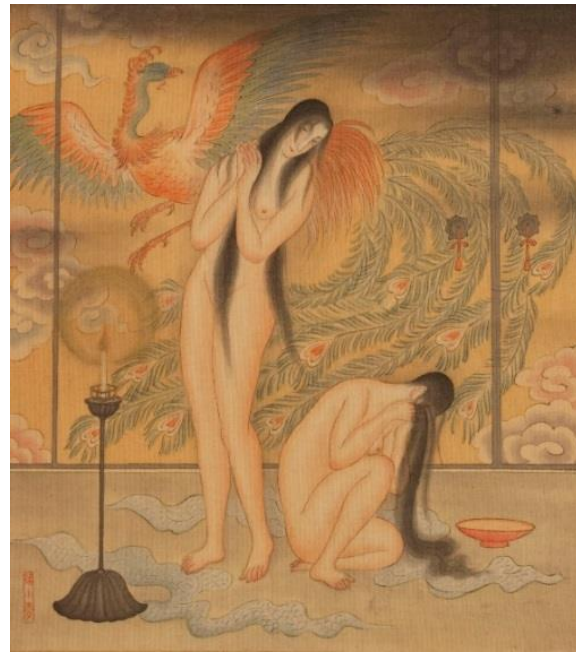
橘小夢は悲劇の画家です。最初に計画された画集は関東大震災で作品が出版社ごと焼失したため実現せず（大正12年）次の画集は、編集者が原画を紛失したため実現しませんでした。（大正13年）昭和7年に版画の自費出版を始めますが、その第一回目の作品「水魔」は発禁処分を受けました。何度も作品発表の機会を逃した小夢は、一部の愛好家からは熱狂的に支持されていましたが、世間から広く知られることはなく、「幻の画家」とも言われました。これまで判明していなかった彼の足跡を明らかにし、紹介します。



図1「水魔」
昭和7年 版画
発禁処分を受けた

見どころ2 初公開作品

小夢の20代の作品はこれまでほとんど確認されておりませんでした。しかし、郷里の秋田県に残されていることがわかり、本展示で初めてご紹介します。小夢の画歴をあきらかにするうえで、貴重な初公開作品です。



左 図2「撮政関
自行上記」
昭和初期頃
中 図3「花魁」
大正12年
右 図4（仮題）
「艶笑」大正
中期頃
いずれも初
公開作品

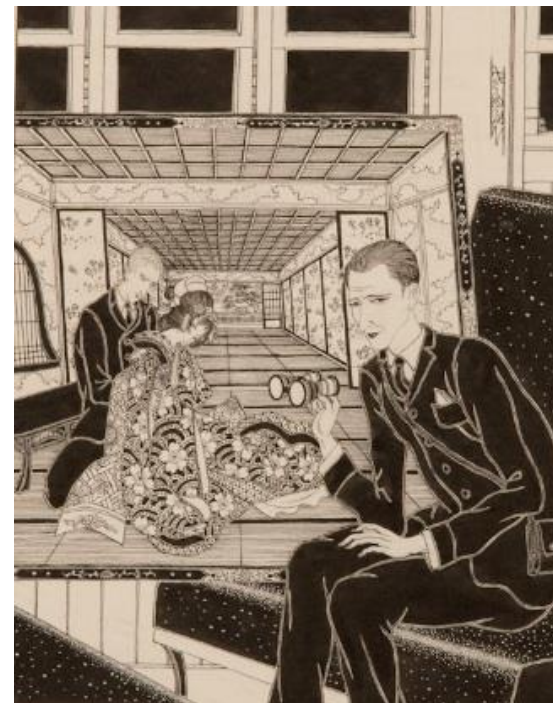


右 図5
「嫉妬」
大正12年
凸版画
女二人の
髪は無数
の蛇。心
の闇には
魔物が棲
む。



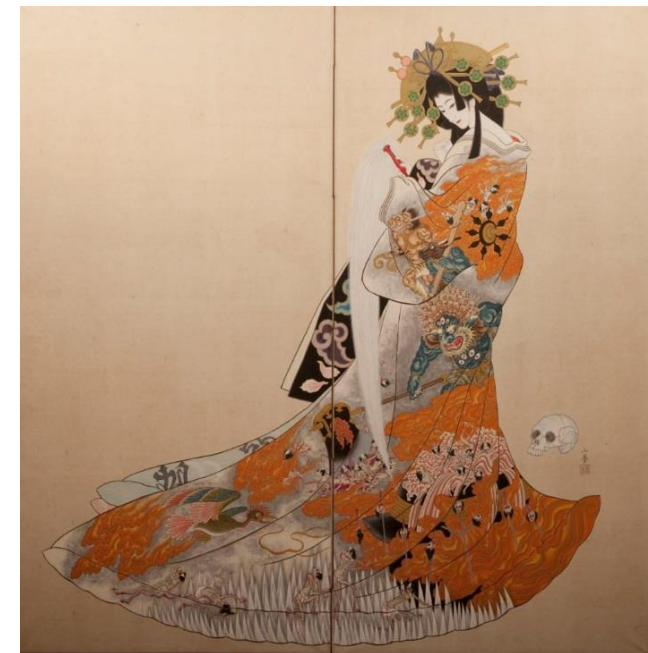
見どころ3 再評価のきざし

今から22年前の平成5年、弥生美術館は初の橘小夢展を開催しました。その時作品をご覧になった方は、口々に「怖くて美しい絵」と言い、これほど妖美に満ちた個性的な作品が、評価されぬまま長いこと放置されてきたことに驚いたのです。その後徐々に彼の作品は、各展覧会において紹介されるようになりました。例えば版画の歴史を紹介する展覧会や、日本画の個人コレクション展、あるいは大正時代の絵画展などにおいて展示され、年々注目を集めるようになってきました。時間という過酷な波は、かつて名声を誇った画家であっても容赦なく忘却のかなたに葬りますが、逆に埋もれていた才能を拾い上げて光を当てることもあります。小夢が本格的な創作活動から離れて70年が経とうとしている今、彼の仕事は、再評価されようとしています。 ※本展開催に併せ、河出書房新社より画集が刊行されます



左 図6
「押絵と旅
する男」昭
和10年
紙・墨・ペン
江戸川乱歩
の小説を題
材にして制
作した。

右 図7
「地獄太
夫」紙本彩
色 昭和
35年頃
地獄絵をま
とった花魁
の鬼気せま
る美しさ



弥生美術館 中村 行

「日本の妖美 たちばな さ ゆ め 橘小夢 一幻の初期作品を公開」

写真貸出申込書

写真送付日 月 日 必着

掲載紙／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望のものにチェックしてください。

図 版(作品タイトル、掲載誌、制作年)	ご希望するデータにチェックしてください
図1 「水魔 (すいま)」昭和7年 プロセス版画 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図2 「殺生関白行状記 (せっしょうかんぱくぎょうじょうき)」 昭和初年代 絹本彩色 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図3 「花魁 (おいらん)」大正12年 絹本彩色 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図4 「(仮題) 艶笑 (えんしょう)」大正中期頃 絹本彩色 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図5 「嫉妬 (しつと)」大正12年 凸版画 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図6 「押絵と旅する男 (おしえとたびするおとこ)」 昭和10年 紙・墨・ペン 江戸川乱歩／作 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
図7 「地獄太夫」(じごくだゆう) 昭和35年頃 紙本彩色 橘小夢／画	<input type="checkbox"/>
読者プレゼント招待券 希望する方は枚数をお書きください	<input type="checkbox"/>

通信欄

ポジ・紙焼の貸出について

同封のプレスリリースでご紹介している図版6点について、データを用意しております。
 ご希望の場合は、この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、**FAX 03-3812-0699** までお申し込みください。
 美術館写真(外観)等を必要とされる場合は通信欄にお書きください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券を10組20名様分までご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌(紙)をお送りくださいますようお願い申し上げます。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

鹿野出版美術財団 弥生美術館
 中村圭子宛 TEL03-3812-0012